

新たな目標に基づく5Gインフラの整備状況 (令和6年度末)

令和8年3月
総務省

1. 5G全体の整備状況

5G基地局数・5G人口カバー率の状況(令和6年度末(2024年度末))

- 2024年度末の各携帯電話事業者※1の5G基地局数※2・5G人口カバー率は、下表・グラフのとおり。

※1 株式会社NTTドコモ(以下「NTTドコモ」という。)、KDDI株式会社・沖縄セルラー電話株式会社(以下「KDDI」という。)、ソフトバンク株式会社(以下「ソフトバンク」という。)、楽天モバイル株式会社(以下「楽天モバイル」という。)の5者。

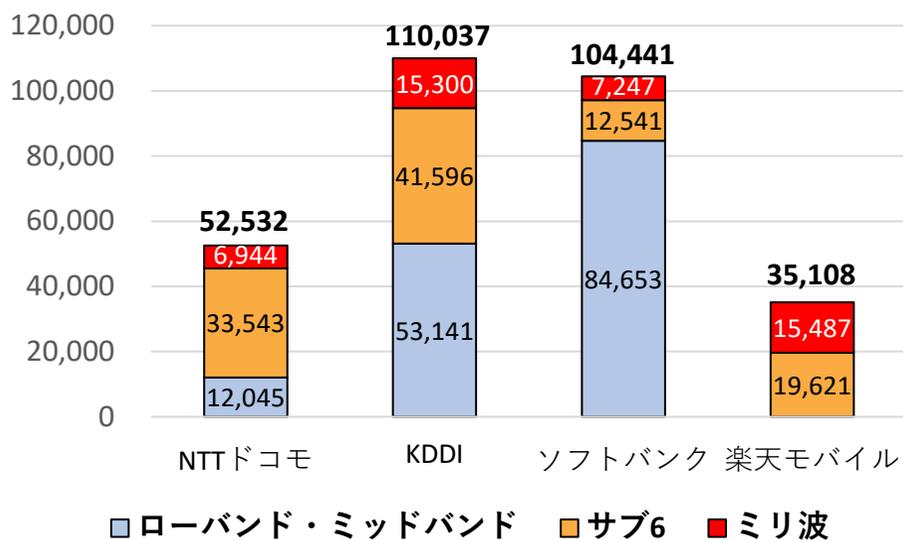
※2 陸上移動中継局を含み、屋内小型基地局及びフェムトセル基地局を除く。

携帯電話事業者ごとの5G整備状況(5G基地局数・5G人口カバー率)

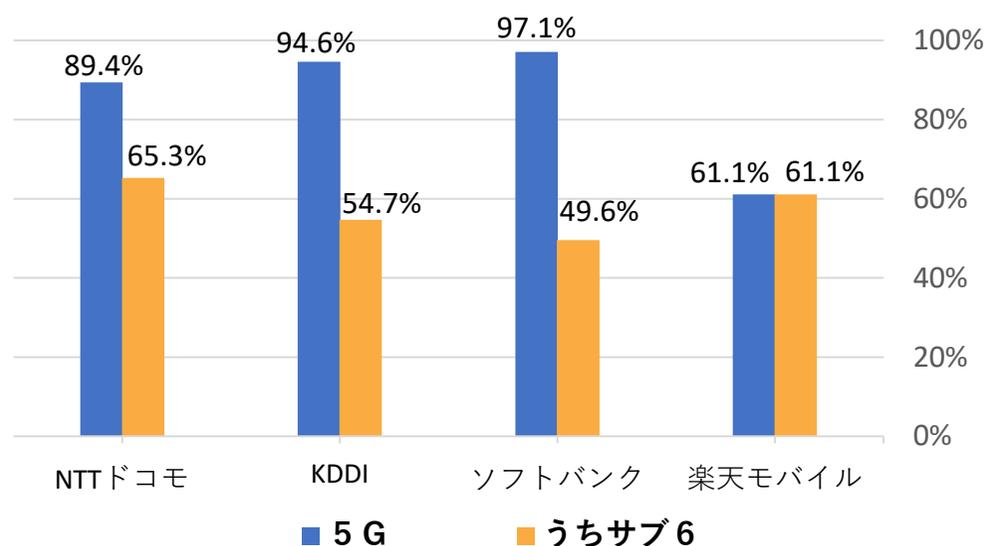
	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル	合計
5G基地局数 (前年度比)	52,532 局 (+6,238 局)	110,037 局 (+15,545 局)	104,441 局 (+19,080 局)	35,108 局 (+899 局)	302,118 局 (+41,762 局)
5G人口カバー率 (前年度比)	89.4 % (+5.9 pt)	94.6 % (+1.3 pt)	97.1 % (+0.3 pt)	61.1 % (+10.5 pt)	98.4 % ※3 (+0.3 pt)

※3 携帯キャリア5者のエリアカバーを重ね合わせた数字(小数点第2位以下を四捨五入)

5G基地局数(周波数帯ごと)



5G人口カバー率



- 都道府県の本庁舎の5Gカバー率は、2024年度末で**100.0%** (47/47都道府県) ※1,2。
- 市区町村の本庁舎の5Gカバー率は、2024年度末で **98.6%** (1,717/1,741市区町村) ※1,2。

※1 目標:2025年度末までに100%【デジタルインフラ整備計画2030】

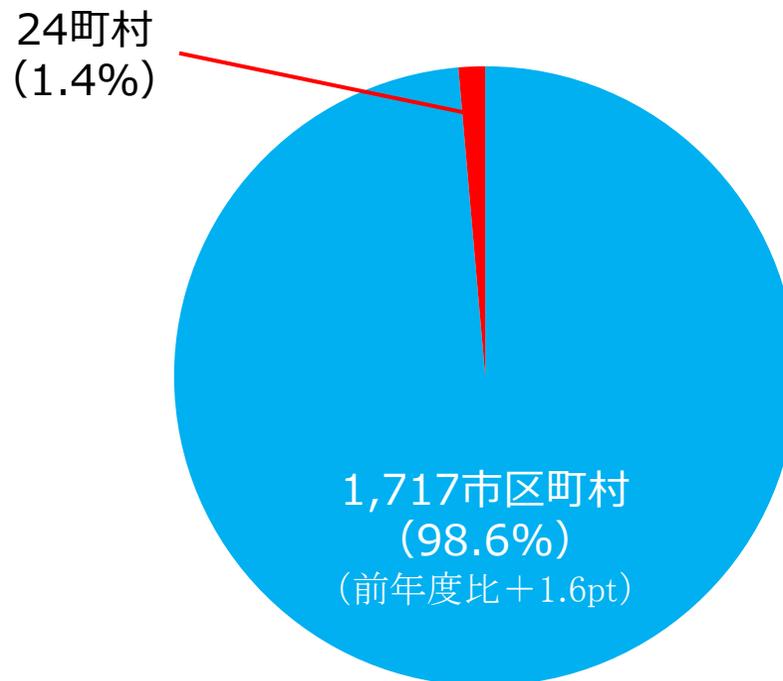
※2 携帯キャリア5者のエリアカバーを重ね合わせた数字(小数点第2位以下を四捨五入)

都道府県



■ エリア化済み

市区町村



■ エリア化済み ■ エリア化していない

2. 5G(サブ6)の整備状況

サブ6展開率の状況(令和6年度末(2024年度末))

- 全国のサブ6展開率(複数事業者のサブ6基地局が展開されているエリア)※1は、2024年度末で**75.5%**※2。

※1 三次メッシュ(全国の三次メッシュのうち、人口が多い順に1番目から13,250番目までのメッシュに限る。)のうち、複数事業者のサブ6基地局(3,600MHz~4,100MHz、4,500MHz~4,600MHzの周波数の電波を使用する基地局(陸上移動中継局を含み、屋内等に設置されているものを除く。))が展開(当該基地局が設置されている又は当該基地局により面積の3/4以上がエリア化されていることをいう。)されている三次メッシュの割合

※2 目標:サブ6展開率(複数事業者のサブ6基地局が展開されているエリア)を2027年度までに90%【デジタルインフラ整備計画2030】

全国のサブ6展開率※3

(2025年3月末)

NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル	全体※4
70.6% (+5.9pt)	58.5% (+2.9pt)	50.3% (+5.8pt)	57.9% (+5.3pt)	75.5% (+5.4pt)

※3 括弧内は前年度比

※4 携帯キャリア5者のうち複数事業者のサブ6基地局が展開されているメッシュを重ね合わせた数字(小数点第2位以下を四捨五入)

都道府県ごとのサブ6展開率※5

(2025年3月末)

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
88.8%	93.4%	91.5%	79.0%	85.7%	92.9%	77.5%	32.9%	26.7%	17.6%	54.1%	56.0%	84.5%	65.6%	84.0%	91.5%
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
95.1%	92.1%	91.0%	90.4%	62.7%	84.2%	67.8%	41.1%	69.5%	85.4%	94.0%	87.5%	78.0%	92.9%	97.8%	94.9%
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
92.9%	91.6%	56.9%	94.7%	97.6%	93.9%	96.7%	88.6%	84.7%	85.8%	82.2%	88.9%	85.0%	93.2%	57.5%	

※5 携帯キャリア5者のうち複数事業者のサブ6基地局が展開されているメッシュを重ね合わせた数字(小数点第2位以下を四捨五入)

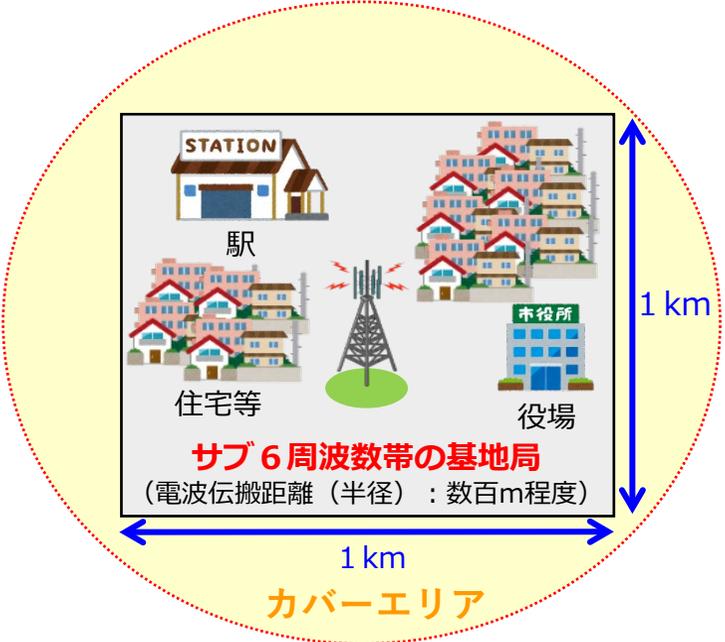
(参考)「サブ6展開率」の考え方

- サブ6周波数帯の電波伝搬距離が半径数百メートル程度であることを考慮し、**全国を1km×1kmのメッシュに分割した上で、サブ6周波数帯の基地局※1を開設したメッシュ※2数を分子、高トラヒックエリア※3のメッシュ数を分母として計算。**

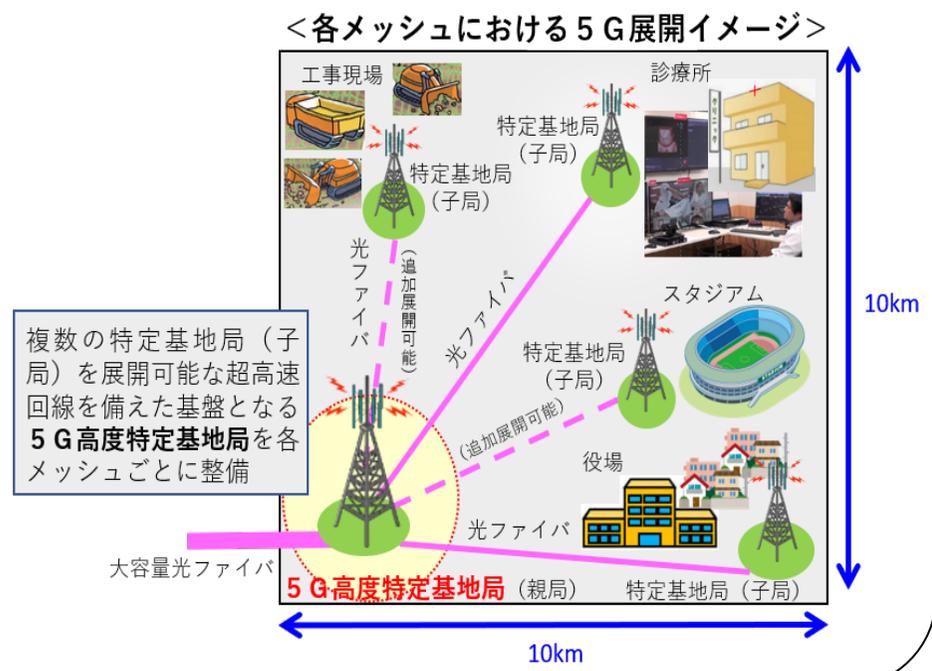
※1 陸上移動中継局を含み、屋内等に設置されているものを除く。
 ※2 サブ6基地局により面積の3/4以上がエリア化されているメッシュを含む。
 ※3 人口集中地区の面積が13,250平方キロメートルであることを参考に、人口が上位の13,250メッシュを指す。

- これまでの5G用周波数の割当て時の指標（5G基盤展開率）よりも、より緻密な基地局の展開が期待される。

サブ6周波数帯の展開率の概念図



(参考) 5G基盤展開率



3. 5G(ミリ波)の整備状況

- 全国のミリ波基地局※¹数は、2024年度末で約**4.5万局**※²。

※¹ 27.0GHz～28.2GHz又は29.1GHz～29.5GHzの周波数の電波を使用する基地局(陸上移動中継局を含み、屋内小型基地局及びフェムトセル基地局を除く。)

※² 目標:2027年度までに5万局【デジタルインフラ整備計画2030】

ミリ波基地局数※³、⁴

(2025年3月末)

NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル	合計
6,944局 (+212局)	15,305局 (+299局)	7,259局 (+422局)	15,487局 (+253局)	44,995局 (+1,186局)

※³ ()は2023年度末値からの増加数

※⁴ 令和6年度の1年間の中で一定期間のみ開設された基地局(テンポラリー基地局)の数を含む。

ミリ波の具体的な整備スポット及び今後の見通し

NTTドコモ

- ミリ波搭載のスマート街路灯型基地局
例) 東京都新橋駅SL広場に弊社無線設備 (ミリ波) を設置
- 数万人単位の人が集まるスタジアムへ設備設置可能な位置に最大限ミリ波基地局の設置を実施。
- ミリ波の更なる活用に向け、大規模なスタジアムへのミリ波整備を強化。また、ミリ波端末の普及率向上に向け、ミリ波の魅力の訴求が必要であるため、体験型のイベントを進めている。



KDDI

- 東京ドーム、甲子園球場、エスコンフィールドHOKKAIDO、東京駅、羽田空港の一部、**西新宿都庁周辺** 等に整備。
- 将来的には、トラヒックが高いエリアを中心に、より一層の無線容量が必要と想定しており、効率的にミリ波のカバレッジを拡大するためには、新たなエリア展開手法が必要。
- このような状況を踏まえて、ミリ波中継装置を活用した商用エリア展開を推進中であり、**大阪・関西万博**といった大規模イベントや**新宿西口**や**高輪**といった人が集まるスポットに展開済み。



ソフトバンク

- PayPayドーム、**新国立競技場**、東京ビッグサイト、東京駅 等に整備。
- ミリ波の広い帯域幅を生かして、大容量通信が必要な場所でのスポットカバー/トラヒック対策、法人向けの産業用途としても展開。今後の拡大には、トラヒック需要に対応したインフラ整備に加え、産業用途等でのユースケース創出が重要。**CPE※**を活用し、**屋内外の固定系アクセスや特定エリアでの高速通信需要に対応することでミリ波の利活用範囲を広げ、高品質な通信体験を提供していくことを目指す。**
- 今後もトラヒック需要に応じた整備を適切なタイミングで行うとともに、更なる活用に向け、産業用途等でのユースケースの創出に向けた取り組みや技術検討等を進めていく。



※ Customer Premises Equipment
(構内設置機器)

楽天モバイル

- 味の素スタジアム、ノビアスタジアム神戸、パシフィコ横浜展示ホール、楽天モバイルパーク宮城、埼玉スタジアム2002、武蔵野の森総合スポーツプラザ、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、国立競技場、札幌ドーム、国立代々木競技場、幕張メッセ 等に整備。
- 1.7GHz帯、サブ6に併設する形でミリ波を積極的に置局した結果、認定された開設計画を超える整備を実施済み。
- 当初の想定に反してトラヒックは増加していないが、今後も、ミリ波の対応端末の普及などによりトラヒック増加が予想される場合など、需要に応じて整備を予定。

4. 5G(SA)の整備状況

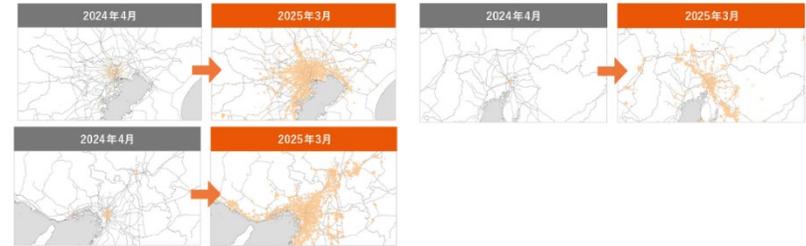
SAの具体的な整備スポット及び今後の見通し

NTTドコモ

- 5G SAを利用可能な主な施設・スポット、エリアの住所リストは、ホームページにて公表。（令和6年度末のSA基地局数：14,248局）
- 主要駅周辺やスタジアム、大学、商業施設、空港、観光地といった拠点エリアに加え、周辺エリアや生活動線を含むエリアへ順次拡大中。
- SA対応端末について今後更なる拡大を予定。

KDDI

- 利用者の生活動線となる鉄道路線（山手線、大阪環状線の駅など）や商業地域で重点的にエリアを整備。（令和6年度末のSA基地局数：40,627局）
- 5G SAは、5Gの特長であるネットワークスライスを利用できるメリットがあるが、利用者がNSAを利用している時よりも品質が低下しないように5G NSAと同等以上の品質を確保しつつ、サービス提供。
- 富士山の開山期間において、富士山頂と御殿場口にて5G SAのサービス提供を実施



ソフトバンク

- 都市中心部から適宜拡大中。山手線沿線の一部主要駅等、鈴鹿サーキットにも整備。（令和6年度末のSA基地局数：99,871局）
- ユーザー体感を評価基準として設定し、その基準を満たす地域から順次スマートフォン向けエリアを展開。面的な整備を推進しつつ、トラヒック需要に応じて最適な周波数を活用し、安定的かつ高品質なサービス提供を実現。
- 今後は、ユーザー体感の更なる向上に加え、5G SA特有の機能を活かした新サービスの創出に取り組む。特にスライシングによる優先制御やRedCapによるIoT分野での活用拡大、VoNRを活用した高品質音声通信の提供を通じ、産業利用の深化や地域社会のデジタル化推進に貢献していく。



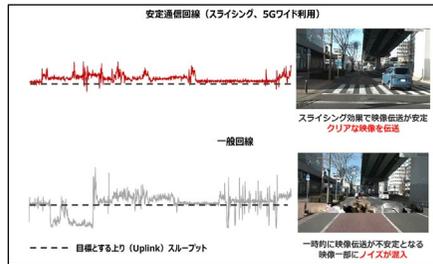
楽天モバイル

- 現在、コアネットワークにおいて、5GSA化に向けた開発を進めている。
- 現時点においては、2026年12月末頃を目途に運用を開始する予定であり、その後端末検証等を経て、商用化する見込み。

SAの活用事例等

NTTドコモ

- コミックマーケットの通信環境を継続的に改善
- 鈴鹿サーキットの通信環境を抜本的に改善
- 九州最大級の祭り「博多祇園山笠」の映像伝送を「5G SA」「5Gワイド」で無線化
- 愛知県名古屋市でネットワークスライシングの実証実験に成功
- エリアや時間を指定したネットワークスライシングの実証実験に成功



名古屋市でのスライシング実証実験

KDDI

- SAの活用事例としては、下記のような多数の取り組み（代表事例のみ記載）を実施。
 - 5G SAで東京マラソン2023を生中継
 - 5G SAスライシングで全国高校野球選手権大会の中継技術実証に成功
 - 5G SAで混雑下におけるゲームストリーミングの安定通信に成功
 - 5G SAのネットワークスライシング機能を活用したドローン空撮映像の安定伝送
- 令和7年3月18日から、放送事業者向け5G SAネットワークスライシングのソリューション提供を開始。



ソフトバンク

- 新東名高速道路での4G/5GネットワークにSRv6 MUPを適用した実証実験について
- 「AITRAS」のエッジAIサーバー上で動作する「遠隔自動運転サポートシステム」を開発

